

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和6年11月7日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 自然共生課
-----	-----------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の収受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 ※「牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する」 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)		
施設内容	○面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など 〈植物園面積〉 約20.5ha(うち7.8haを利用)、駐車場(普通車など258台、バスなど6台) 〈主要施設〉 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、植物研究交流センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど 〈開園時間〉 午前9時～午後5時 〈休園日〉 12月27日～1月1日 〈主な料金〉 入園料／一般730円(高校生以下無料)、団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)／映像ホール1,470～1,890円、アトリエ実習室520～630円など 撮影料／業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,880円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,780円		
職員体制	常勤職員: 27人 契約職員: 21人 合計: 49人		

「職員数は令和6年4月1日現在」

2 収支の状況

単位:千円

		令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(予算)
収入	県支出金	534,117	386,518	508,157
	使用料・手数料	89,736	231,192	80,473
	その他	32,283	53,705	8,187
	収入計 (a)	656,136	671,415	596,817
支出	事業費	54,890	60,713	54,484
	管理運営費	267,514	344,415	278,029
	人件費	241,553	266,260	264,304
	その他	92,179	27	0
	支出計 (b)	656,136	671,415	596,817

3 利用状況

	令和4年度(実績)	令和5年度(実績)	令和6年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	214,304	466,200	220,000
②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・企画展や教室開催時にはアンケートを実施のうえ、利用者のニーズを把握し、より効果的、効率的な広報手段等を検討し、次回以降の企画展等に活かしている。また、指摘事項などの意見を職員間で共有し、改善を図っている。		
③その他特記事項	・令和5年度は、牧野博士がモデルとなる連続テレビ小説「らんまん」(NHK)が放送され、過去最多記録を大幅に更新する46万人を超える国内外のお客様にご来園をいただいた。また、放送に先駆け令和5年3月より観光博覧会「牧野博士の新休日」が開催され、当園はメイン会場の一つであり、牧野博士の業績を顕彰する施設として、観光の機運を高めることに繋がった。 ・令和5年5月には、植物研究交流センター「ラボテラス」がオープンし、子供向けの実験室も新設され、第2の牧野博士の育成を目指し、教育普及や研究員との交流に力を入れた。 ・令和5年6月より、園内ガイドサービスを有料化し、来園者の増加によるオーバーツーリズムを未然に防ぎ、職員の負担軽減を図り、持続可能な運営を可能とした。 ・令和5年11月には、第38回「龍馬賞」を受賞し、昭和33年の開園以来、植物に関する研究・教育の発展に貢献し、また、地元の人々に親しまれるだけでなく、観光振興に寄与したことから評価を受けた。		

4 令和5年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。 ・毎週、課長以上による会議を行い、事業の効果的な実施方法や協力体制について検討するとともに情報共有を行っている。 ・「らんまん」の放映により、爆発的な入園者数の増加となり、来園者へのきめ細やかな接客を行い、この機を最大限に活用し、職員一丸となって適正な管理運営に努めた。
②利用者サービスの維持向上	・牧野富太郎博士の人物像や業績を深く知って頂くための特集を盛り込み、イベントや企画展など県内の報道機関に計16回プレスリリースを配信し、年間427回の取材対応を行った。また、朝ドラの週タイトルとなった植物を毎週取り上げたり、職員によるインスタライブを計14回実施し、植物園の魅力を伝えた。 ・レストランの抜群な眺望や人気のある地産地消の洋食メニューなど、店舗の魅力を各メディアで積極的に発信するとともに、ラン展や夜間開園では特別営業を行い、期間限定メニューを販売を行うなど、来園者の満足向上に繋げた。 ・週末には、インフォメーションに地域通訳案内士をスポット雇用し、英語圏の観光客を案内できる体制を整えた。
③事業実績	・栽培植物の管理においては、公開園地に植栽されているものは植物ラベルやパネルを積極的に更新し、「らんまん」で紹介された植物を来園者にアピールするとともに、長江圃場で管理している植物は、温室や土佐寒蘭センターなどで個々の植物の開花に合わせて一般公開を行った。温室ではラン科植物を中心に355鉢、伝統園芸植物は年15回の展示計画で371鉢を展示した。 ・研究分野では、研究活動の成果を原著論文11件、その他出版物30件、学会31件を発表した。「らんまん」の放送により、当園の活動とともに牧野博士についての講演依頼が増加し、県内外で講演会86件を実施した。 ・薬用植物研究では、大豊町と小林製薬と連携して薬用植物の試験栽培を実施しており、トウキの葉を活用した商品を3種類開発を行い、薬用植物栽培を通じて、地域の課題解決に取り組んでいる。 ・応用開発研究では、1研究機関、10大学、7企業と連携し、有用植物の探査で得られた試料エキスをライブラリーに基づく共同研究を実施している。
④収支の状況	連続テレビ小説「らんまん」を契機とした牧野富太郎博士と牧野植物園の情報発信及び普及活動の結果、県内外や団体客が増えたことから、年間入園者数は前年度から251,896人増加し、利用料金収入も前年度から141,456千円増となった。
総合評価	A 1. 「らんまん」の放映を機に最大限のPR活動を行うとともに、効率的な管理運営を行い、利用料金収入の大幅増につながる運営を行っている。また、前年を上回った利用者数の中で、業務執行体制として大幅な増員もなく、職員一丸となって取り組まれた成果である。 2. 「らんまん」終了後の状況が重要であり、入園者の声を聞くことが必要である。インスタグラムやネットを通じてイベントの感想を集め、その声を活かすことが効果的である。職員にとっても、入園者の声が喜びの声に変わることにより、やりがいを感じるため、重要な要素である。 3. 新規来園者の誘客及びリピーターの増加を目指すために、アンケート調査などの分析を通じて欠点を見つけ、それに対する対策を講じて欲しい。 4. 全ての項目で水準を上回っており、優れた管理運営が行われている。更なる向上を目指して今後も取り組んでほしい。